



佐保川沿い平城京史跡と中世の遺産・稗田環濠

観察河川： 秋篠川、佐保川、地藏院川、稗田環濠、蟹川

日時：2021 年 7 月 22 日 快晴、気温 35 度

集合：10 時半、近鉄樫原線 九条駅

参加者：21 名

10 時半九条駅出発時すでになかなりの暑さで、熱中症を心配しながら、ゆっくり歩行開始。秋篠川にある平城京西市船着き場跡を確認。その後我が国最古の貨幣である富本銭が最初に発掘された（1985 年）場所へ。残念なことに詳しいことは現地記載なく、発掘の経緯も不明。JR の線路を越えて、秋篠川と佐保川の合流地点より佐保川の堤防を歩き、平城京羅城門跡へ。羅城門橋の上には 5km 北にある朱雀門が双眼鏡で見ることができるポイントがあり、科員一同何とか片鱗を見られたようであった。1300 年もの昔に造営された平城京の規模や、今では全く想像できない幅 70m の朱雀大路にただただ感嘆。あまりの暑さに予定を変更し、賣太神社に直行し 12 時 40 分に昼食。神社は古事記の伝承者である稗田阿礼を祀っている。境内は木陰もあり、少し涼しく元気を取り戻したところで 1 時 20 分出発し稗田環濠集落外周へ。暑さ最高潮で気分不良の人も出てきたので、六地藏、埋め墓、枳殻（からたちのこと）地藏をさっと見学し、2 時 40 分 JR 郡山駅で解散。（落伍者なし、やれやれ）なお各地点の説明は浅野さんが詳しく作成された案内文を参照してください 以下に環濠集落について少し補足します。 #環濠集落 元来地理学上の概念で、“堀や溝で囲まれた集落”のことを指す。すなわち城下町や寺内町と いった様々な集落形態のうちの一類型、どちらかといえば希少な集落景観である。主に弥生 時代、10~11 世紀の東北地方（青森県高屋敷館遺跡）、室町~戦国期の近畿地方（堺環濠都市、奈良県稗田環濠集落）などが挙げられる。近畿地方の一般的な集落の規模は 250x250m ほど、濠の幅は 6~8m。内部には 20~30 戸の家屋があり、中心に神社や寺を有する。濠の 目的は自衛のための防御機能だと考えられていた。しかし近年では、田原本町にある法貴寺 遺跡のように小区画が集まってユニットを組み、環濠屋敷とも呼ばれるような集落が見つかり、これらの濠の目的は灌漑用水をためることで、防御機能は時代の流れに対応して付加されていたとものと考えられている。やがて灌漑用水の確保は、技術の発達により濠から溜池へとシフトしていく。武装化の必要もなくなり、環濠集落は消え去ることになった。だが 町中に伸びるコ

ンクリートの側溝や畑につながる灌漑水路が、実は環濠集落の濠の名残というものも少なくないと考えられている。—ちなみに稗田環濠の説明書には特定保水池整備事業と書かれています。昔から人は水の確保と管理に苦心していたようです。 文責：倭

